

宮城牛タンラウンド報告

平成28年6月25日（土） アーク仙台ビル

1

話題提供1 「学習指導要領の理解-体育科・保健体育科の授業を振り返る-」

国立教育施策研究所教育課程研修センター教育課程調査官 高橋 修一

次期学習指導要領に関する話題が多い今、現行の学習指導要領を振り返り、その成果と課題から、私たちが子どもたちと共に何を学んでいく必要があるのかを丁寧に話していただきました。会場には、小・中学校教員、支援学校教員、行政関係者、大学関係者、大学生など様々な立場の方々にご参集いただきましたので、それぞれの立場から興味深く話を聞きくとともに、意見交流を図ることができました。特に、小学校教員の皆さんからは「目の前がぱっと明るくなったように疑問が解けた」という感想をいただきました。



2

話題提供2 「支援学校の体育と合理的配慮」

宮城県総合教育センター特別支援班 主幹 加茂 純
宮城県気仙沼支援学校 教諭 藤村 知美

指導主事の加茂先生の立場から、合理的配慮について説明いただきました。文献で目にする内容が多い内容ですが、具体的場面を例に挙げて説明いただいたことにより、私たちが「共生社会の実現」へ向けて、考え、実践していくべきことが見えました。また、支援学校教員の藤村先生からは、体育科での取組を発表いただきました。動画を用いて説明いただいたことにより、子どもたちや教師の支援の詳細がつかめました。参加者からは、「体育科の授業の中で、個人差への対応が課題となっていたが、発表を聞いて糸口がつかめた」という感想をいただきました。

3

グループディスカッション



話題提供を聞いて感じたこと、普段の授業で悩んでいること、課題解決へ向けて取り組んでいることなどを、立場や居住地が異なるグループで意見交流をしました。佐藤豊先生や高橋修一先生が、各グループを回り、直接疑問に答えてくれるラウンドならではの贅沢な時間でもあります。学習指導要領に示されている「運動の楽しさや喜びを味わう」という文言の「楽しさ」と「喜び」について豊先生が話されると、「おおー学校で共有します！」と声があがりました。広島県、神奈川県、埼玉県、福島県、岩手県と他県の皆さんも多く参加していただきましたので、各県の子どもたちや体育科・保健体育科の授業の様子も知ることができた有意義な時間となりました。

3

研究発表

(1) 運動の楽しさや喜びを味わい進んで運動に取り組む児童の育成

-主体的・協働的に運動に取り組む授業実践の工夫を通して-

富谷町立東向陽台小学校 教諭 石田 雄一

学力向上へ向けた研究に取り組む学校が多い中、「学ぶ楽しさを体得させたい」という思いから、体育科の研究に取り組み始めた学校の実践を発表いただきました。ラウンド開催当時は、研究を立ち上げたばかりだったのですが、その後、ラウンドで得たことを学校で共有し、力ある研究を継続されています。



(2) 種目の特性に応じた技能を向上させるための指導の在り方

-ICT機器を活用した「一連の体の動き」への着目を通して-

丸森町立丸森中学校 教諭 国井 美和

教師の模範の演示や口頭での説明が長いという課題解決へ向けて、ICT機器を有効活用した実践例を発表していただきました。一連の体の動きを、タブレット端末を用いて、個人やグループで捉えることにより、説明に要した時間が減り、生徒同士の双方向のコミュニケーションが増えていった様子が伝わってきました。また、態度面だけではなく、技能も高まったとのことでした。

研究の詳細は、宮城県総合教育センターHPをご覧ください。<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/>



3

振り返り

グループディスカッション時に出された意見や疑問に答えるとともに、これからの体育科・保健体育科の動向について話していただきました。「評価」「体育科の資質・能力」「アクティブラーニング」「個人差」など、多岐に渡る内容でしたが、時に関連付けながら、時に整理しながら分かりやすく話を展開してくださいました。参加者全員がそれぞれの立場で、何をしなければならぬか、どのように子どもたちと向き合っていくかを考える時間となりました。



■ ラウンド後記

今回は、小学校教員8人、中学校保健体育科の教員1人、高等学校教員2人、支援学校教員3人、指導主事等8人、大学教授等2人、大学生5人の方々に参加いただき、多種多様な立場から意見をいただくことができました。特に、広島県清田先生、保健体育科の教員を目指す皆さん、特別支援教育に関わる皆さんに参加していただき、交流を図れたことが有意義であったと思います。次年度はもう少し大きな会場で、意見交換やワークショップの時間を確保するように努めます。